日本精神保健社会学会　　2020年9月30日
THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
ニュースレター第70号
発行人:宗像恒次　編集人:山本美奈子
事務局: 東京都豊島区西池袋 2-39-8
ローズベイ池袋ビル3階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上
TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240
E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第26回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ: 『メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況』

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

今年度の学術大会・総会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19)の終息が見通せない状況から、オンラインでの開催となります。

今年の大会テーマは『メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況』です。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う1日になりましたら幸いです。なお、今年の研究発表は、発表要旨集を学会ホームページに掲載し、掲載をもって学会発表を行ったこととします。

●開 催 日 時: 2020年11月23日（月：祝日)、13時～16時30分

●大会テーマ：メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況

—個人の危機と社会の危機—

①基調講演　宗像 恒次 学会長

②シンポジスト

○中嶋 一恵氏

（筑波大学発ベンチャーSDS SAT情動認知行動療法研究所）

○新行内 勝善氏

（NPO東京メンタルヘルス・スクエア　カウンセリングセンター長）

●ツ　ー　ル：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参 加 申 込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1ページ右上に記載）にて、**氏名、メールアドレス、電話番号を記載**のうえ、お申込ください。

●参　加　費：2,000 円

●参加振込み：**2020 年 11 月 13 日（金）**までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日申し込みの参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

●研 究 発 表：別途 2,000 円が必要になります。

※9 月 23 日までにエントリーし、学会事務局から受理の連絡があった方が対象になります。

●振 込 み 先：ゆうちょ銀行　加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6－613036

シンポジウムのご案内

今回のシンポジストは、2 名の方にお話しをして頂きます。ファシリテーターは、本学会の宗像恒次学会長（筑波大学名誉教授、筑波大学発ベンチャーSDS SAT 情動認知行動療法研究所）が行います。当日のシンポジストの方の要旨をご紹介致します。

○新行内 勝善氏（NPO 東京メンタルヘルス・スクエア　カウンセリングセンター長）

テーマ：新型コロナウイルス感染症と SNS 相談

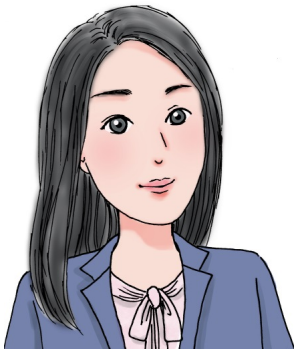
当法人で SNS 相談をスタートしたのが 2018 年 3 月、厚労省が自殺対策の相談事業でそれまでになかった SNS 相談をはじめて導入したときでした。その後、私自身は厚労省の作業部会に加わり、「自殺対策における SNS 相談事業ガイドライン」作りに携わりました。以来 2 年以上が経過していますが、今年度の SNS 相談事業は厚労省の自殺対策のほか、コロナのこころの相談、こどもたちの相談などを複数の自治体から受託しており、その数は 10 を優に越え今後も増え

ていきそうです。こうした中、最も大きな変化はやはり新型コロナであったかと思います。緊急事態もあり、私たちは生活や仕事が大きく制限され、さまざまな変化を余儀なくされました。実はこの間、相談事業の中で面接や電話での相談は大きく数が減りました。相談者が相談室に来れないことに加え、カウンセラーも相談室に出勤できなかったためです。ここをどうやって私どもが乗り越えたかといえば、テレワークでの SNS 相談の導入です。

しかし、これはある意味禁断の果実であったのかもしれないと考えています。それはどうしてか？このシンポジウムでは、新型コロナの影響はどのように相談現場に現れているのか、相談の数や内容もできる限りお伝えしつつ、カウンセラー側の舞台裏をお伝えできればと考えています。

○中嶋一恵氏（筑波大学発ベンチャーSDS SAT 情動認知行動療法研究所 研究員）

テーマ：Web によるカウンセリングと対面によるカウンセリングからの学び



国内での新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今後も新たなウイルスとともに生きることを前提とした「新しい生活様式」というものを考え、移行していく必要性が求められています。このようななか、SAT 療法センターでは 4 月上旬からオンライン（Zoom や Skype 使用）によるカウンセリングを導入することになり、4 月はオンラインでのカウンセリングを希望されるクライアントは約 65％を占め、5 月以降も継続している状態です。

オンラインによるカウンセリングで一番心がけていることは、対面によるカウンセリングと同等の効果が得られるようにすることであり、そのためにクライアントの状態把握と適切な技法の使用が重要となっています。

シンポジウムでは、対面によるカウンセリングとオンラインによるカウンセリングの実際から、危機的状況のなかでも自分自身の課題に立ち向かい、乗り越えていくことの意味を、皆さんと共に考えていく機会となればと考えております。

理事の現場から―介護保険とともに歩き 20 年―

○服部 万里子氏（服部メディカル研究所 所長）

服部の活動の現場は、NPO 渋谷介護サポートセンターのケマネジャーです。介護保険が始まる前年の 1999 年に渋谷区第一号の「特定非営利活動法人」を設立し、2000 年 1 月から介護保険の居宅介護支援事業所（ケアマネジメント）、NPO 渋谷介護サポートセンターをサービス併設せずに 20 年間、取り組んできました。

日々在宅の要介護認定を受けた方々に向きあい、生活の不安や心身の課題に向き合い「どのように生きたいか」に沿い、必要なサービスや医療との連携、地域との連携、保険者（市町村）との連携の橋渡しをしてきました。

利用者に寄り添い、介護保険と共に歩き、20 年になります。この間、介護保険法は 6 回法律が変わり、国の介護報酬（介護サービス単価）は 7 回改訂されました。この 20 年は「制度に振り回された 20 年」ともいえます。

介護を必要とする世帯の構成は、3 世代同居世代から現在は独居が一番多くなり、介護を必要とする原因は「脳血管疾患」から「認知症」に変わり、介護保険の利用者の 75%が 80 歳以上と「超高齢介護保険」に変わってきました。

ここ数か月は、新型コロナウイルス過に振り回されています。「サービス事業所の自粛や職員の不安」、「熱中症と 3 密対策」、「家族の在宅勤務」に要介護者の体力低下、虐待事例などに向き合う毎日です。

服部は「毎日 1 万歩」と「江戸時代小説」に凝り、講演や出張が激減する中で「新しい日常」を向き合っております。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。**2019年度の年会費は、2019年10月1日**から**2020年9月30日**の期間です。また、**2020年度の年会費は、2020年10月1日**から**2021年9月30日**の期間です。2019年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　　通常会員　5,000円　　学生会員　3,000円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局　担当：村上
TEL: 03－3986－3220　FAX: 03－3986－3240　E-mail: **murakami@t-mental.co.jp**

入会金：5,000 円

会　費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036　　加入者名:日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （ 男 ・ 女 ）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
自宅住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			